

野茂英雄のメディアにおける表象

The way to be described Hideo Nomo on media

1K08B123-7 武田 和之

指導教員 主査 リー・トンプソン先生 副査 石井 昌幸先生

【目的】

ゼミで学習していく中で、「ヒーロー像」というものをメディアが作り出しているという項目があった。その中で例とされていたのは現在シアトルマリナーズでプレーしているイチロー選手と、現在オークランド・アスレチックスでプレーしている松井秀樹選手である。そこで、私は野茂秀雄選手に注目してみたくなった。野茂秀雄選手は、日本人メジャーリーガーの実質的パイオニアである。大リーグ挑戦という思い切ったことをしたからこそここにメディアが注目し、さまざまな表現をされたことだろう。このメディアでの表現のされ方と私達が野茂選手に持っているイメージには大きな関係があると思う。その関係を新聞というサイドから見ていくことで何かわかることがあるのではないかと思い今回このテーマで研究をしてみたいと思う。

【方法】

順序としてまず、野茂選手の野球選手としての歴史を調べる。その後に早稲田大学のデータベースである WINE を使って野茂英雄選手に関する新聞記事を調べる。そしてその記事を、コーディングシートを使ってデータをまとめる。最後に野茂選手の歴史的背景と記事を照らし合わせて考察する。

【結果】

1985年～1987年 成城工高 1987年 新日鉄堺 1990年 近鉄バファローズに入団 1994年 ロサンゼルス・ドジャース 1998年 ニューヨーク・メッツ 1999年 ミルウォーキー・ブルージェイズ 2000年 デトロイト・タイガース 2001年 ボストン・レッドソックス 2002年 ロサンゼルス・ドジャース 2005年 タンパベイ・デビルレイズ 2008年 カンザスシティ・ロイヤルズ

また、朝日新聞、読売新聞の記事から分かったことは、大きく三つある。まず一つ目は1995年から試合結果のみの記事が増えているということです。二つ目は全体的にみても野茂選

手を否定的に表現する記事はほとんどないということである。

そして三つ目は1994年から1995年にかけての記事数の増加が大きいということだ。

文字数をみて分かることは、日本のプロ野球でプレーしていた時に比べ大リーグに行った時の方が、文字数が少ない記事の割合が増えている。

【考察】

これらのことを踏まえて言えることは、野茂選手の野球選手としての歴史と、新聞での野茂選手を取り上げる記事数や記事の内容は大きく関係しているということである。また、同じ一人の人物でも、日本で野球をしていた時に比べてアメリカにわたって野球をしたときは選手個人としてのメディアでの価値が上がり、取り上げられる内容や頻度が全然違うということも分かった。

また、文字数を考えると、文字数が少ない記事（999字以下）は野茂選手が記事の中心の内容として取り上げられている記事であると考えられる。また文字数が多い記事（1000字以上）は、野茂選手以外の内容の記事に野茂選手が取り上げられている記事であると考えられる。そして野茂選手が大リーグに行ってから文字数が少ない記事の割合が増えていた。これは仮説通り野茂選手が日本でプレーしていた時より大リーグでプレーするようになった年の方が野茂選手を中心に上げた内容の記事が多いと言えるのではないかな。

また、野茂選手を否定的に表現する記事がほとんどなかったということについては、新聞という媒体の特徴による結果であると言えるのではないかな。一概には言えないが、新聞では個人を否定的に表現する記事は少ない印象がある。週刊誌やテレビなど他の媒体を調べれば、私の印象にある野茂選手の「日本野球界を裏切った。」という内容や「わがまま」という表現が出てくるのかもしれない。